

# 2017冬期スケジュール 国際線定期便の概要

2017冬期スケジュール（2017年10月29日～2018年3月24日）期間の事業計画について、航空会社117社（本邦8社/外航109社）から申請があり、10月25日付で認可。

**運航便数全体の動向**（注：当初認可時における第1週目の運航便数、今後期中での増減はあり得る）

旅客及び貨物便合計で**過去最高の5,287便/週**。

本邦社：**1,487便/週**（28.1%）（'16冬期比+31.5便/週・'17夏期比+5便/週）

外航社：**3,800便/週**（71.9%）（'16冬期比+212便/週・'17夏期比+113便/週）

## 主な動向

### ○アジア方面の動き：韓国方面の大幅増、中国方面の微減、東南アジア方面の着実な増加

【韓国】前期に引き続き大きく増加し、**中国方面を抜き方面別シェアトップ**へ。主に韓国社LCCが牽引。

【中国】春秋航空(中国)が中国国内路線再編により**中国の地方都市路線を減便**したこともあり全体として微減。

【東南アジア】**日本航空**がバンコク路線を、**セブパシフィック航空(フィリピン)**がマニラ路線を増便。その他**シルクエア(シンガポール)**が日本へ初就航。'17夏期中には**全日空**がジャカルタ路線を増便し、**インドネシアエアアジアX(インドネシア)**及び**ジェットスター・パシフィック航空(ハバロフスク)**が日本へ初就航。

### ○地方空港の動き：近距離アジア路線の新規就航が加速

**新潟空港**へ遠東航空(台湾)が、**広島空港**へシルクエア(シンガポール)が、**松山空港**へ済州航空(韓国)が、**鹿児島空港**へイースター航空(韓国)がそれぞれ**初就航**。

'17夏期中にはピーチアビエーションが**仙台空港**へ、エアソウル及びティーウェイ航空(韓国)の2社が**熊本空港**へ**初就航**。

### ○LCCの動き：市場の堅調な拡大

**'17夏期比で133便/週増**となり、**全旅客便数に占めるLCC比率が25.7%**に。うち韓国社LCCによる増便が121便/週。

# 2017冬期 国際線 旅客・貨物別動向

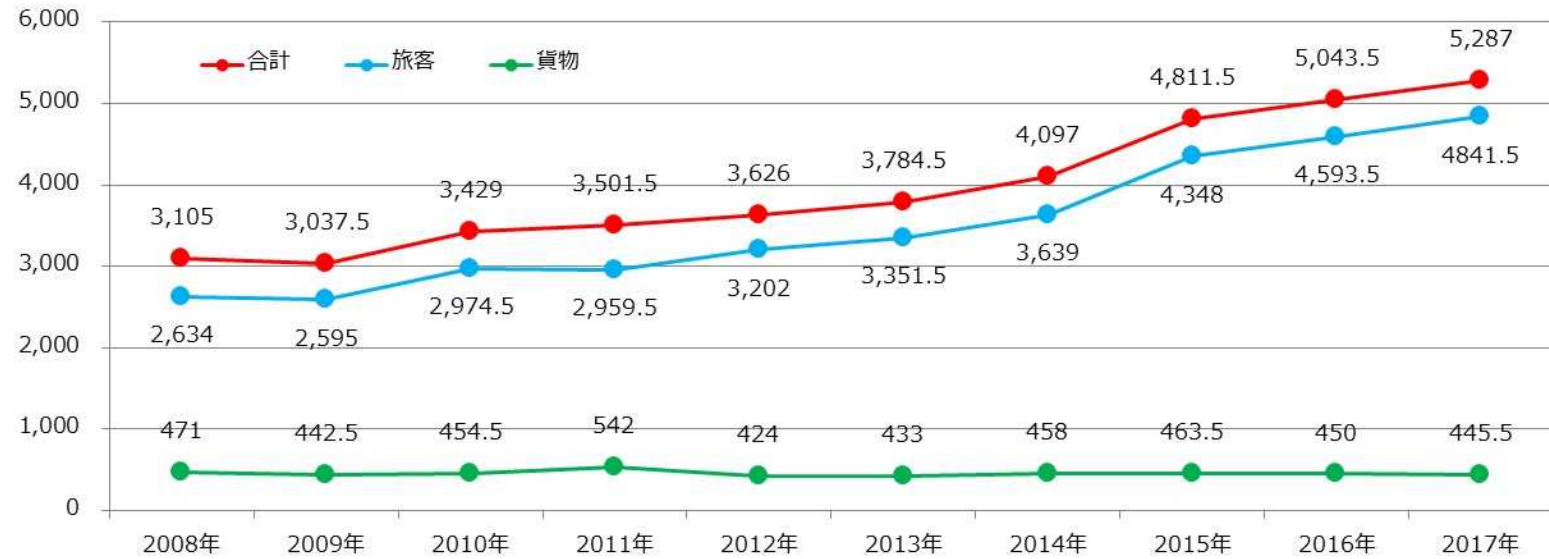
【旅客便】旅客便は、増便を継続し、夏冬通して過去最高便数。韓国社、特にLCCの増便が寄与。  
 【貨物便】貨物便は、微減傾向だがアエロロジック(ドイツ)の成田空港初就航等により'17夏期比では微増。

単位：便/週

空港	2017 冬期			2017 夏期	2016 冬期
	17夏期比	16冬期比			
<b>旅客</b>					
成田	1,621	10.5	47	1,610.5	1,574
羽田	775.5	17.5	28	758	747.5
関西	1,157.5	44	63	1,113.5	1,094.5
中部	326	-22	2.5	348	323.5
地方	961.5	63.5	107.5	898	854
福岡	346.5	18.5	15.5	328	331
那覇	187	1	22	186	165
新千歳	168	24	33	144	135
その他	260	20	37	240	223
計	4,841.5	113.5	248	4,728	4,593.5
<b>貨物</b>					
成田	253	9.5	9.5	243.5	243.5
関西	141	6	0	135	141
中部	20	0	-2	20	22
地方	31.5	-11	-12	42.5	43.5
那覇	27.5	-11	-11	38.5	38.5
その他	4	0	-1	4	5
計	445.5	4.5	-4.5	441	450
<b>全体</b>					
成田	1,874	20	56.5	1,854	1,817.5
羽田	775.5	17.5	28	758	747.5
関西	1,298.5	50	63	1,248.5	1,235.5
中部	346	-22	0.5	368	345.5
地方	993	52.5	95.5	940.5	897.5
福岡	346.5	18.5	15.5	328	331
那覇	214.5	-10	11	224.5	203.5
新千歳	168	24	33	144	135
その他	264	20	36	244	228
計	5,287	118	243.5	5,169	5,043.5

## 冬期スケジュール推移

単位：便/週



## 夏期スケジュール推移

単位：便/週



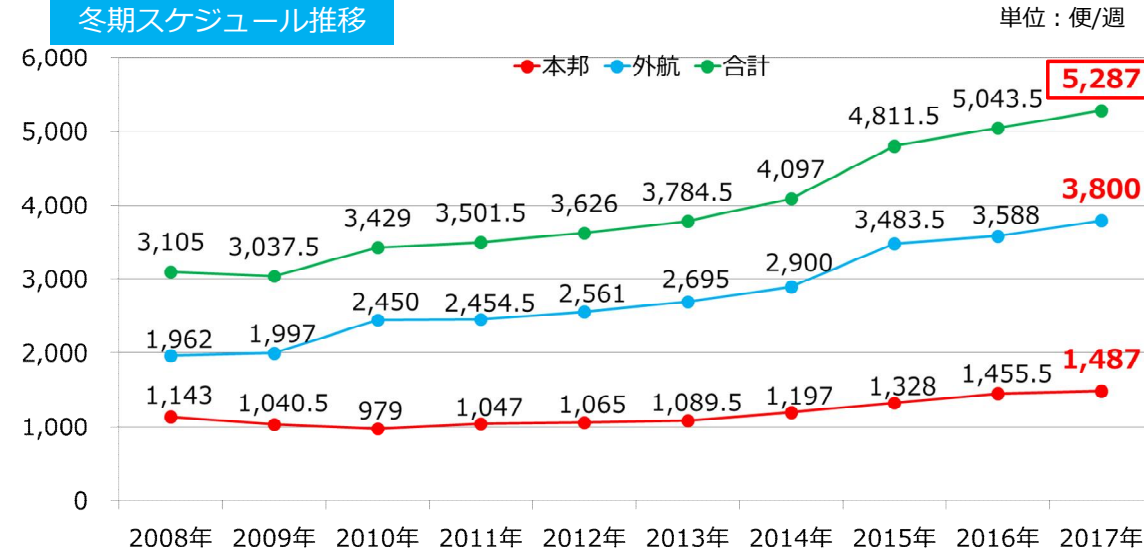
# 2017冬期 国際線(旅客・貨物便) 国籍別動向

【本邦社】 1,487便/週 (28.1%) ('16冬期比+31.5便/週・'17夏期比+5便/週)  
 【外航社】 3,800便/週 (71.9%) ('16冬期比+212便/週・'17夏期比+113便/週)  
 最多国籍は韓国社で1,012.5便/週 (外国企業のうち26.6%)、次に中国社で735便/週 (同19.3%)  
 また、便数の増加が目立つのは韓国社で'17夏期比+130.5便/週。東南アジア社も同比+37便/週。

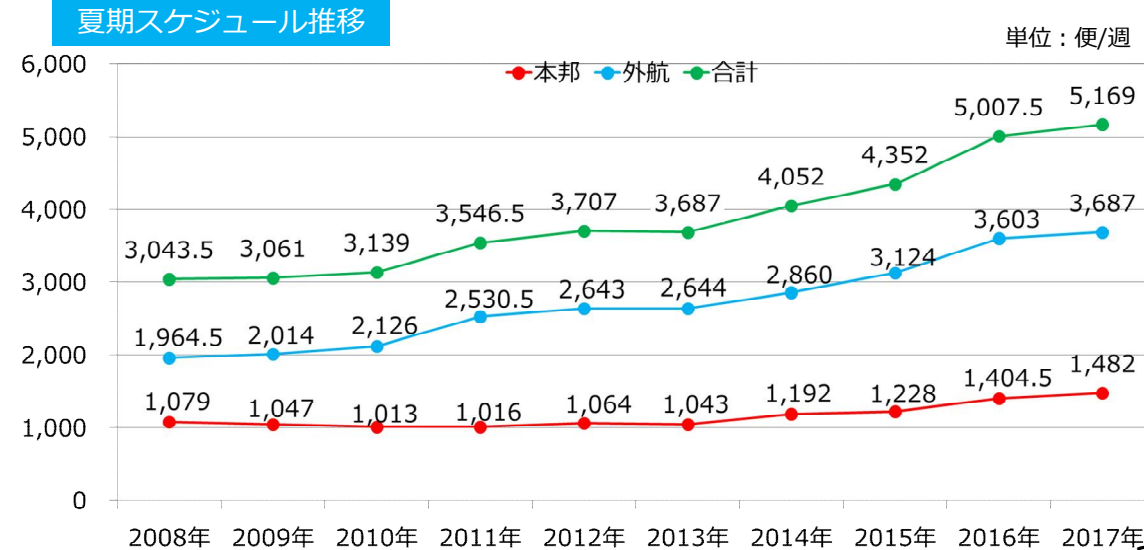
航空会社国籍	2017 冬期		2017 夏期	2016 冬期
	17夏期比	16冬期比		
日本企業	1,487	5	1,482	1,455.5
外国企業	3,800	113	3,687	3,588
中国	735	-36	771	775
韓国	1,012.5	130.5	882	846
台湾	404	5	399	409
香港	349	4.5	344.5	311
東南アジア	472	37	435	435
その他アジア	35	2	33	35
米国	481	-28	509	484.5
ヨーロッパ	176	-1.5	177.5	163.5
北アフリカ	53	1	52	44
中東	54.5	-1	55.5	60
その他	28	-0.5	28.5	25
計	5,287	118	5,169	5,043.5

単位：便/週

冬期スケジュール推移



夏期スケジュール推移



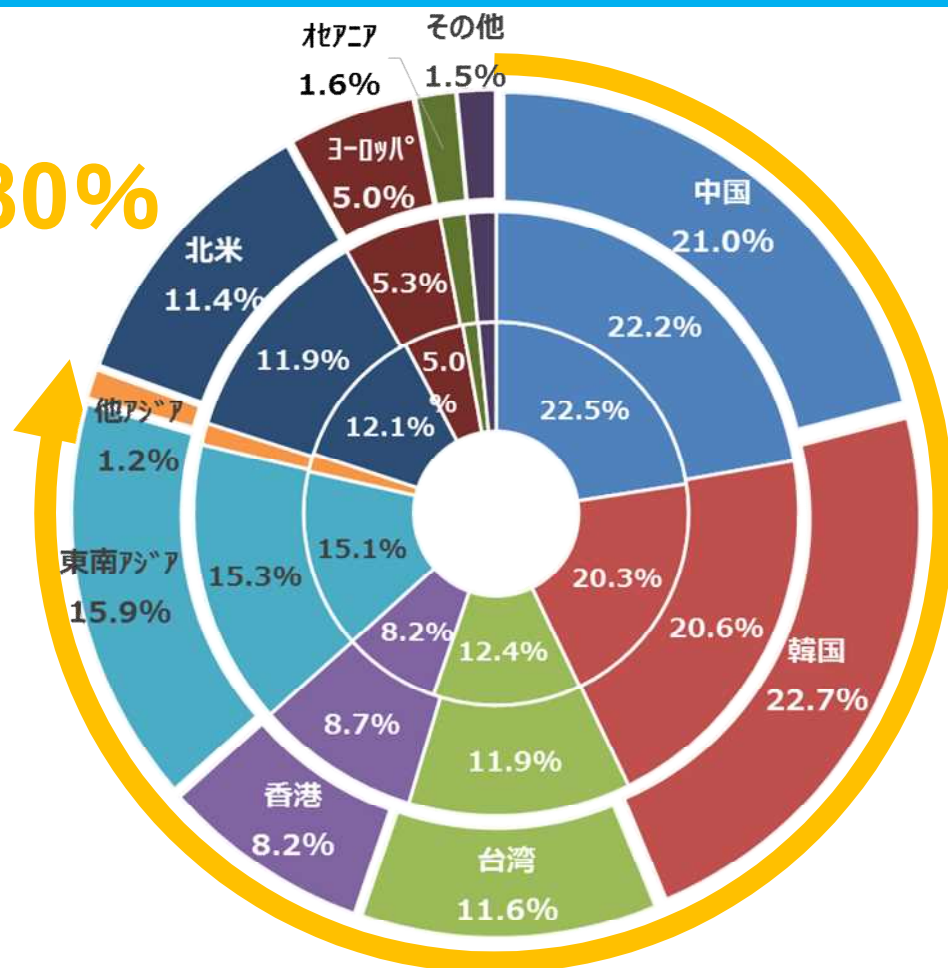


# 2017冬期 国際線(旅客便) 方面別・空港別内訳

【方面別】 アジア方面の便数が全体の約80%を占める。アジアの中で最多は韓国方面で、次いで中国方面、台湾方面の順。LCCによる増便が続いている韓国方面がシェアを拡大しシェアトップへ。

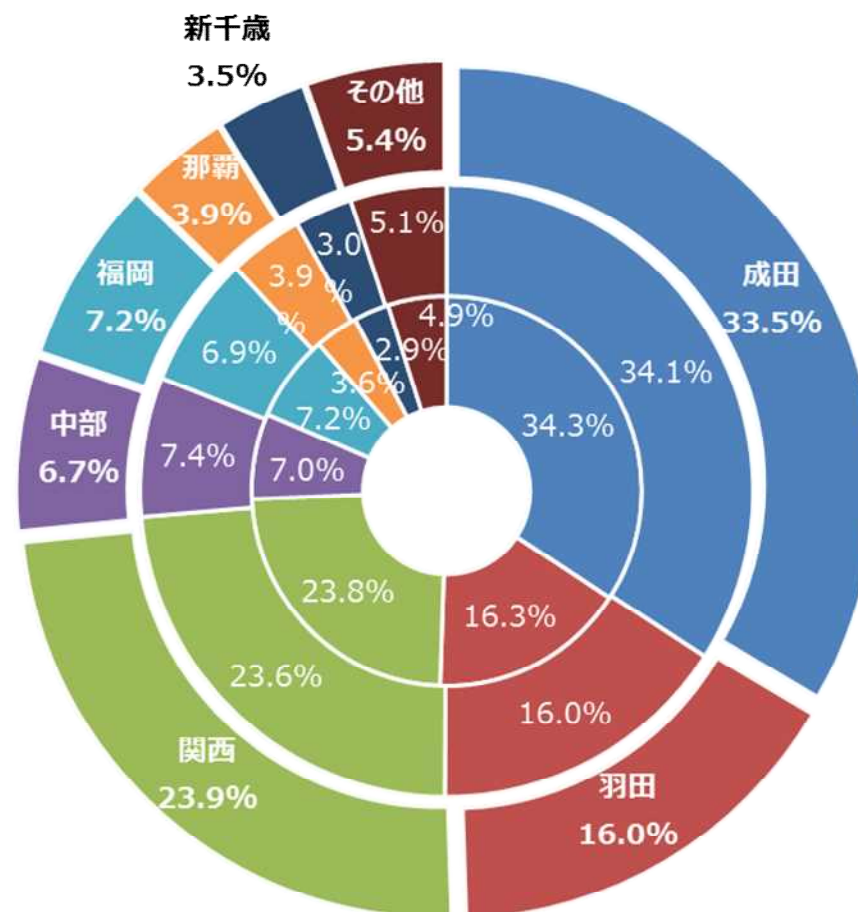
【空港別】 成田・羽田空港で全体の約半数を占める。新千歳空港は、韓国便,台湾便の増便によりシェアを拡大。一方、中部空港は、中国便の減便によりシェアを縮小。

### 方面別



※'17冬期 (外側) 、'17夏期 (中間) 、'16冬期 (内側) の各期における各方面の占める便数割合

### 空港別

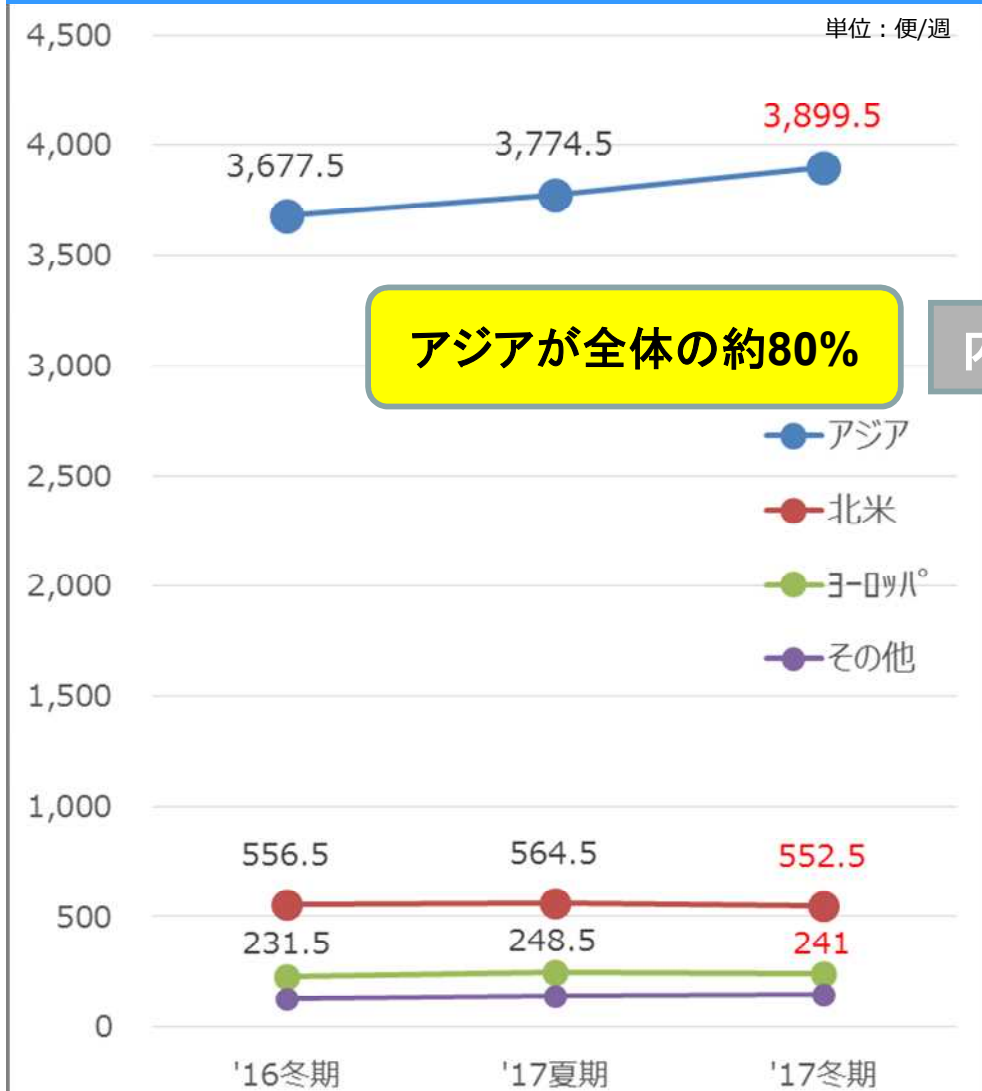


※'17冬期 (外側) 、'17夏期 (中間) 、'16冬期 (内側) の各期における各空港の占める便数割合

# 2017冬期 国際線(旅客便) 方面別推移

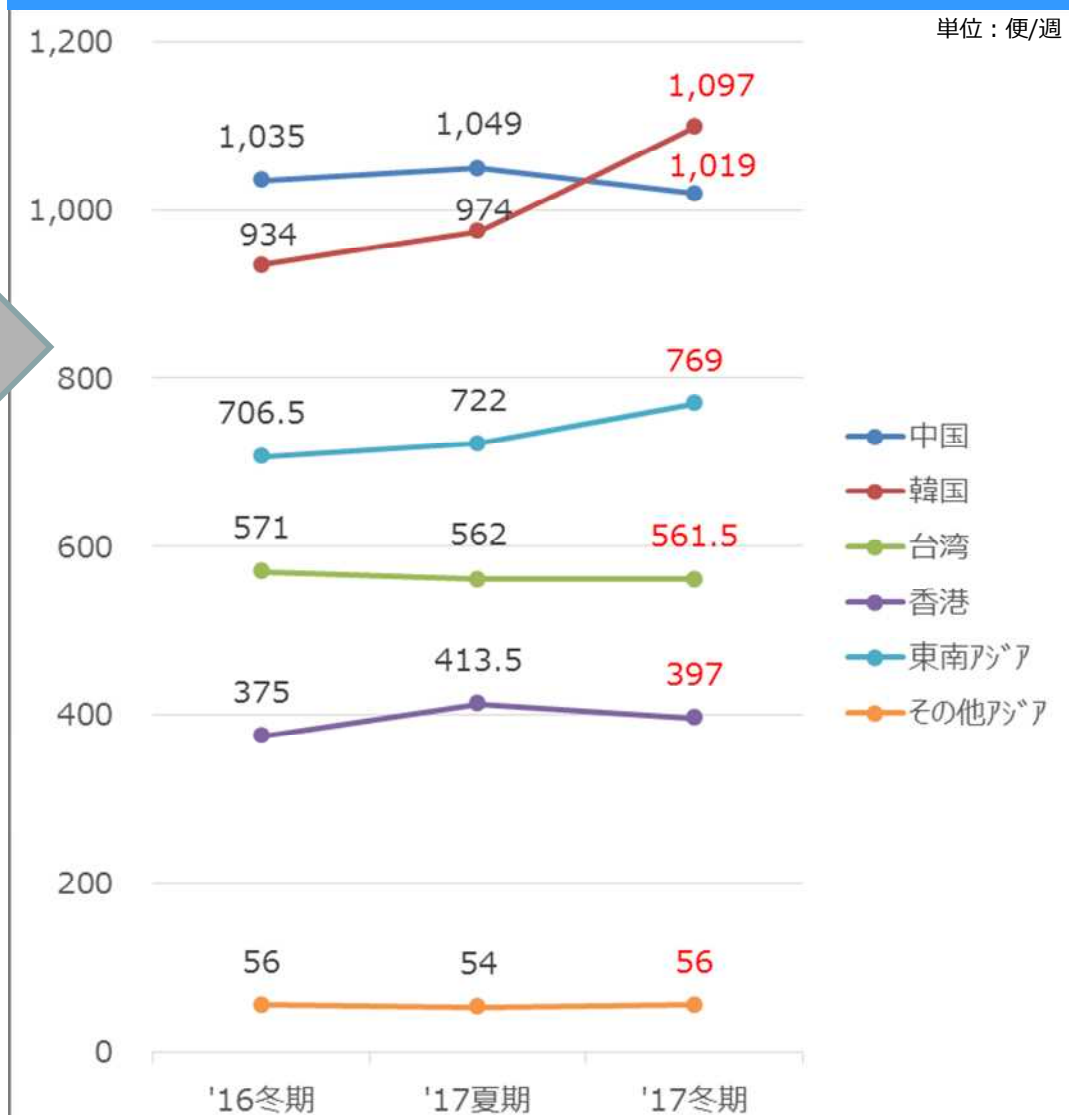
旅客便全体の約80%を占めるアジア方面の増加傾向が継続中。増加の牽引役は韓国方面で、増加分の大半は済州航空やティーウェイ航空,エアソウル等の韓国LCCが担っている。一方、香港方面は本邦社の減便、北米方面は米国社のグアム路線を中心とした減便も影響しそれぞれ減少。

### 方面別内訳



内訳

### アジア内訳



# 2017冬期 国際線(旅客便) 空港別推移(成田・羽田)

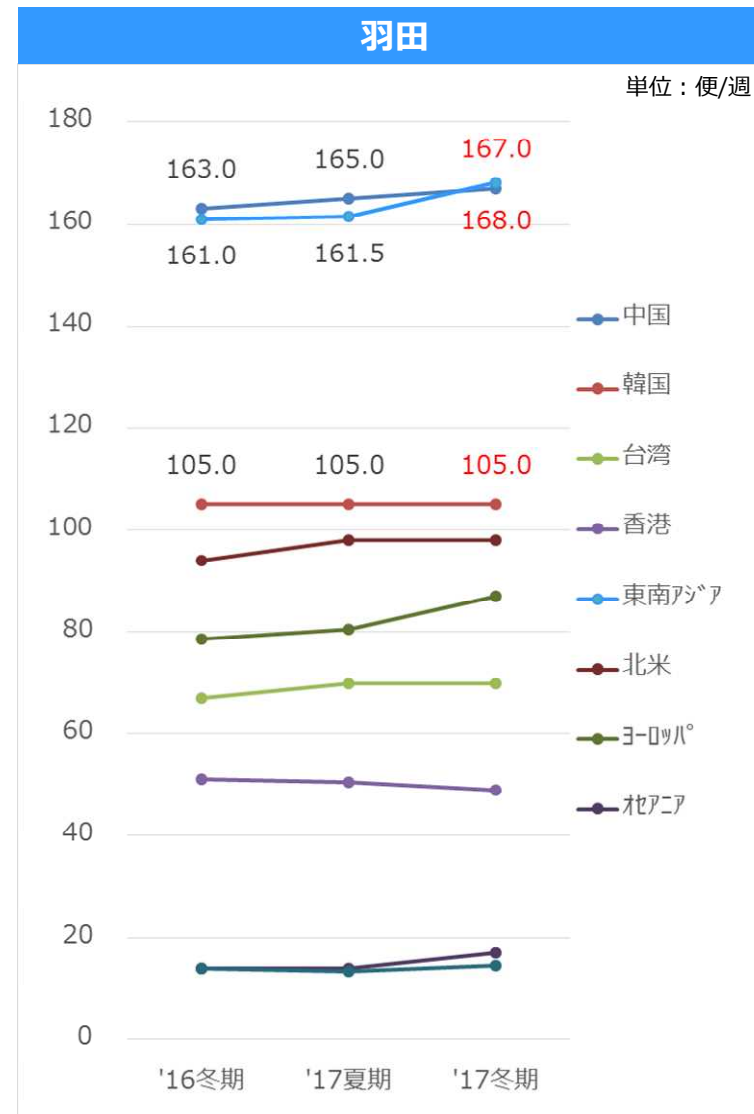
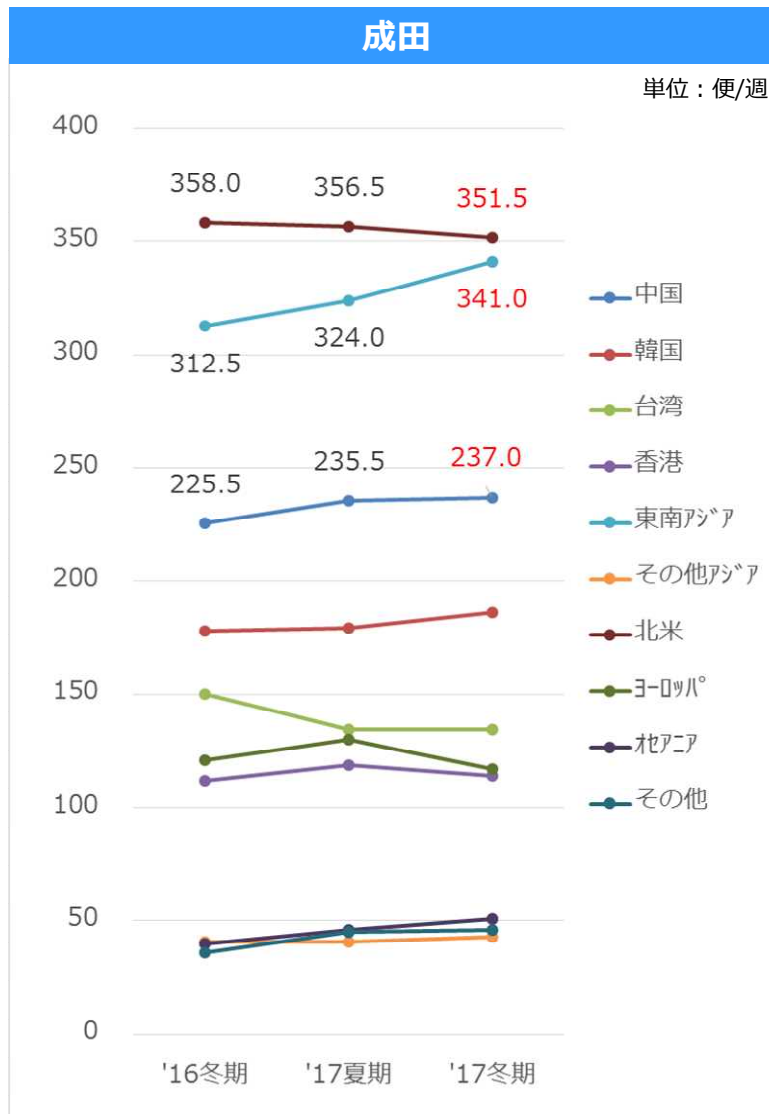
【成田】 エアソウルが仁川路線を新規開設。日本航空がバンコク路線、セブパシフィック航空がマニラ路線を増便。全日空がロサンゼルス路線を増便する一方中華航空がホノルル路線を運休。

【羽田】 日本航空がロンドン路線を増便。香港路線では全日空が増便する一方、香港ドラゴン航空が一時運休。

単位：便/週

成田	'16冬期	'17夏期	'17冬期
中国	225.5	235.5	237.0
韓国	178.0	179.0	186.0
台湾	150.0	134.5	134.5
香港	112.0	119.0	114.0
東南アジア	312.5	324.0	341.0
その他アジア	41.0	41.0	43.0
北米	358.0	356.5	351.5
ヨーロッパ	121.0	130.0	117.0
オセアニア	40.0	46.0	51.0
その他	36.0	45.0	46.0
合計	1,574.0	1,610.5	1,621.0

羽田	'16冬期	'17夏期	'17冬期
中国	163.0	165.0	167.0
韓国	105.0	105.0	105.0
台湾	67.0	70.0	70.0
香港	51.0	50.5	49.0
東南アジア	161.0	161.5	168.0
その他アジア			
北米	94.0	98.0	98.0
ヨーロッパ	78.5	80.5	87.0
オセアニア	14.0	14.0	17.0
その他	14.0	13.5	14.5
合計	747.5	758.0	775.5



# 2017冬期 国際線(旅客便) 空港別推移(関西・中部)

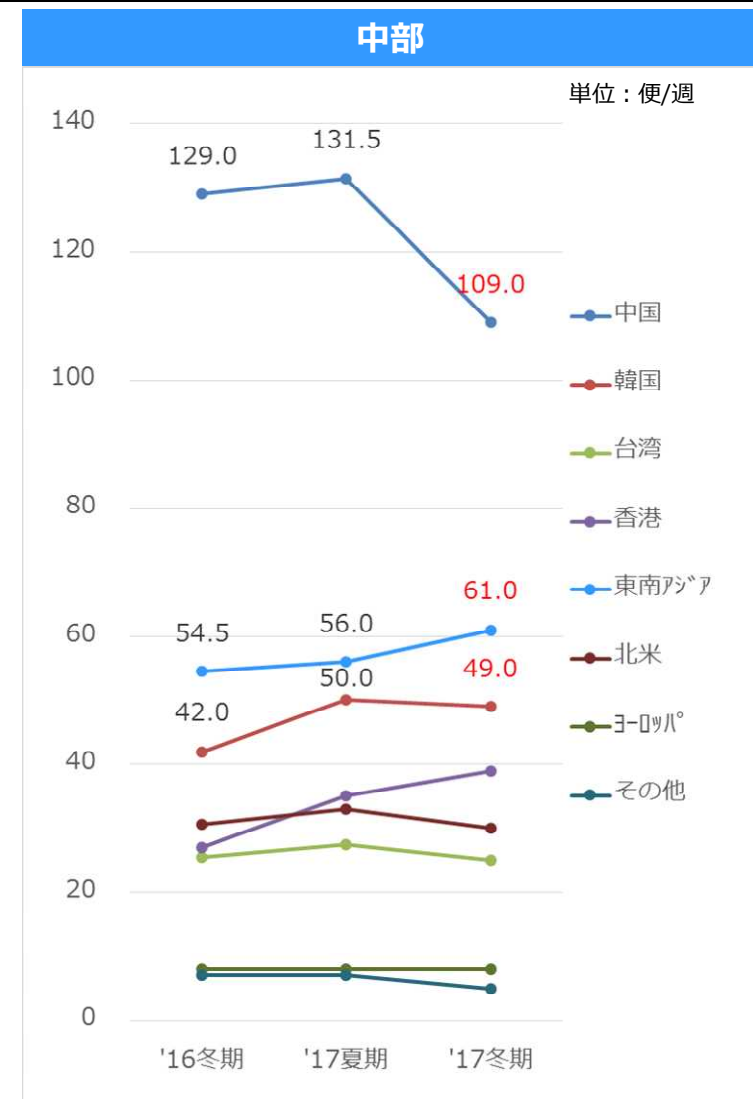
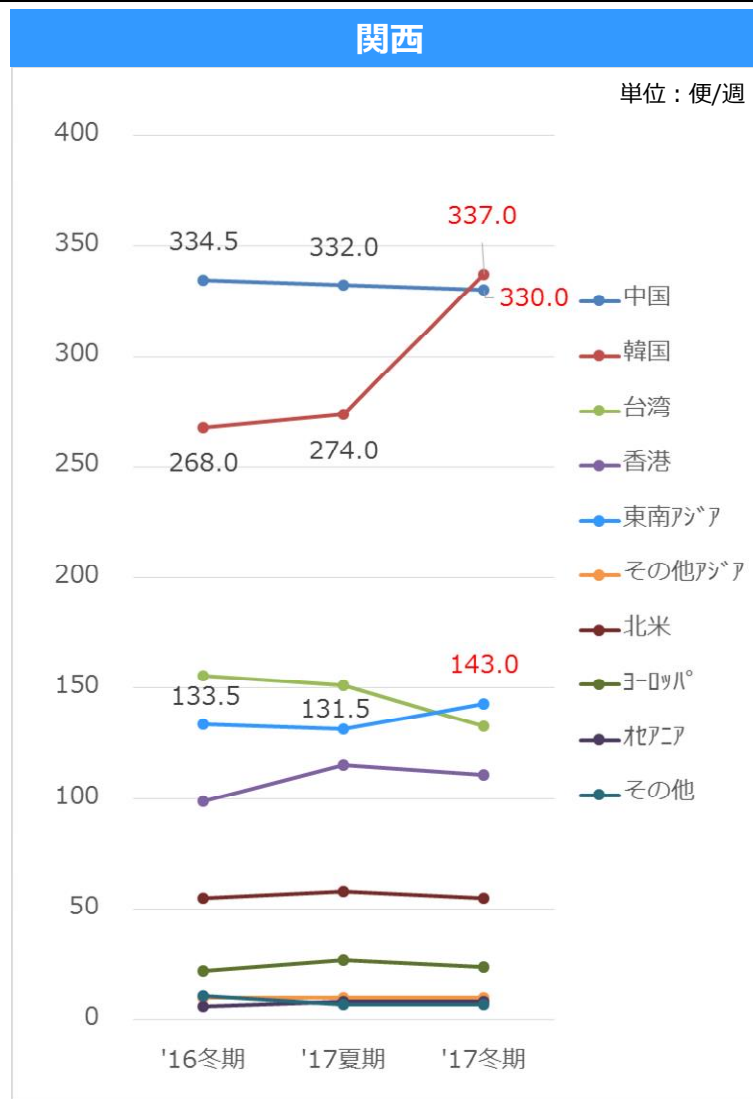
【関西】 韓国方面ではティーウェイ航空が釜山及び大邱路線を、大韓航空及びイースター航空が仁川線をそれぞれ増便。東南アジア方面ではジェットスターアジアがシンガポール路線を、セブパシフィック航空がマニラ路線をそれぞれ増便。

【中部】 中国方面では'17夏期中に春秋航空が寧波をハブ化するため中国の地方都市路線を運休。また、中国東方航空が重慶/合肥線を運休。東南アジア方面ではベトナム航空がホーチミン線を、セブパシフィック航空がマニラ線をそれぞれ増便。

単位：便/週

関西	'16冬期	'17夏期	'17冬期
中国	334.5	332.0	330.0
韓国	268.0	274.0	337.0
台湾	155.5	151.0	133.0
香港	99.0	115.0	110.5
東南アジア	133.5	131.5	143.0
その他アジア	10.0	10.0	10.0
北米	55.0	58.0	55.0
ヨーロッパ	22.0	27.0	24.0
オセアニア	6.0	8.0	8.0
その他	11.0	7.0	7.0
<b>合計</b>	<b>1,094.5</b>	<b>1,113.5</b>	<b>1,157.5</b>

中部	'16冬期	'17夏期	'17冬期
中国	129.0	131.5	109.0
韓国	42.0	50.0	49.0
台湾	25.5	27.5	25.0
香港	27.0	35.0	39.0
東南アジア	54.5	56.0	61.0
その他アジア			
北米	30.5	33.0	30.0
ヨーロッパ	8.0	8.0	8.0
オセアニア			
その他	7.0	7.0	5.0
<b>合計</b>	<b>323.5</b>	<b>348.0</b>	<b>326.0</b>





# 2017冬期 国際線(旅客便) 空港別推移(新千歳・福岡・那覇) 国土交通省

**【新千歳】** 大韓航空の釜山路線、エアプサンの釜山及び大邱路線の増便等により韓国方面が増加。  
**【福岡】** 大韓航空及び済州航空の仁川路線増便等により韓国方面が、エバー航空及びタイガーエア台湾の台北路線増便等により台湾方面が増加。一方、キャセイパシフィック航空が撤退。  
**【那覇】** 済州航空の釜山路線新規開設やジンエアーの釜山路線増便等により韓国方面が増加する一方、中国・香港方面の運休・減便により全体としては横ばい。

単位：便/週

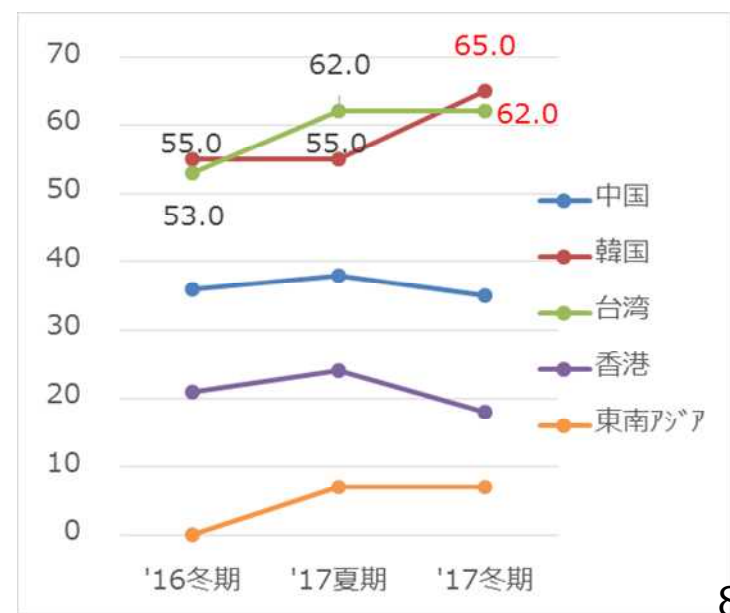
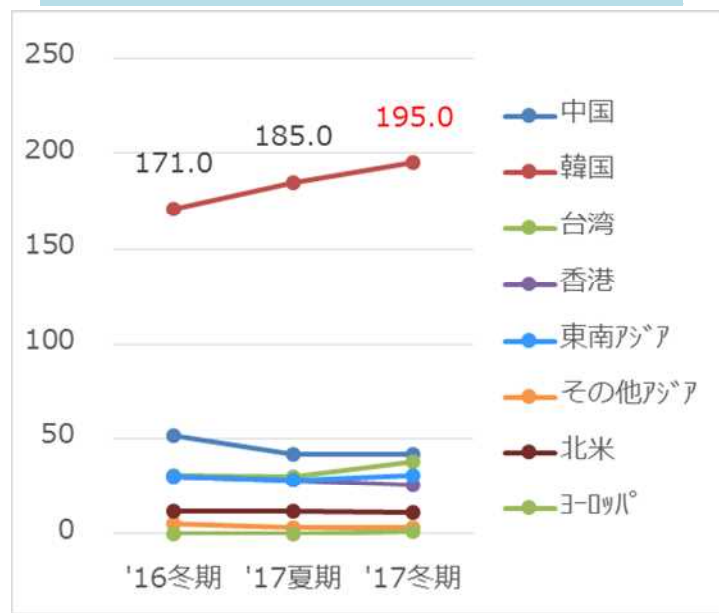
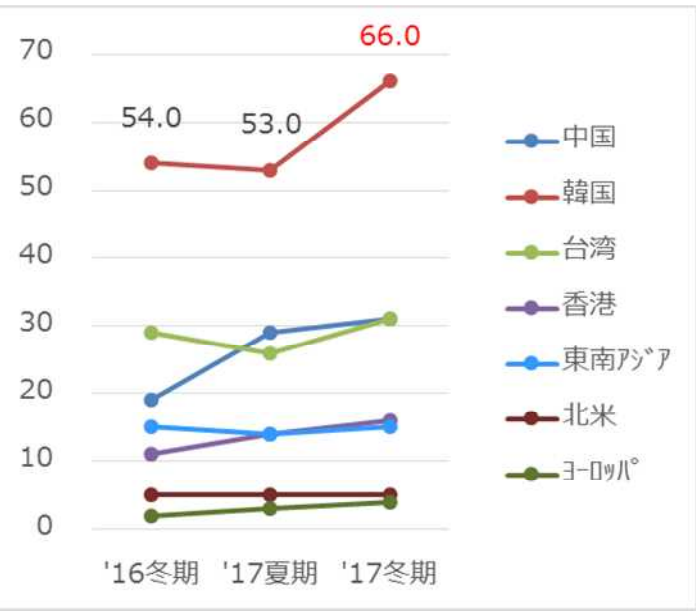
新千歳	'16冬期	'17夏期	'17冬期
中国	19.0	29.0	31.0
韓国	54.0	53.0	66.0
台湾	29.0	26.0	31.0
香港	11.0	14.0	16.0
東南アジア	15.0	14.0	15.0
北米	5.0	5.0	5.0
ヨーロッパ	2.0	3.0	4.0
合計	135.0	144.0	168.0

単位：便/週

福岡	'16冬期	'17夏期	'17冬期
中国	52.0	42.0	42.0
韓国	171.0	185.0	195.0
台湾	31.0	30.0	38.0
香港	30.0	28.0	25.5
東南アジア	30.0	28.0	31.0
その他アジア	5.0	3.0	3.0
北米	12.0	12.0	11.0
ヨーロッパ			1.0
合計	331.0	328.0	346.5

単位：便/週

那覇	'16冬期	'17夏期	'17冬期
中国	36.0	38.0	35.0
韓国	55.0	55.0	65.0
台湾	53.0	62.0	62.0
香港	21.0	24.0	18.0
東南アジア		7.0	7.0
合計	165.0	186.0	187.0





# 2017冬期 国際線(旅客便) 空港別推移(その他 地方空港)

【仙台】ピーチアビエーションが、台北線を開設（'17夏期中）。

【広島】シルクエアが、シンガポール線を開設。

【熊本】エアソウル及びティーウェイ航空が、仁川線を増便（'17夏期中）。

【新潟】遠東航空が、台北線を開設。

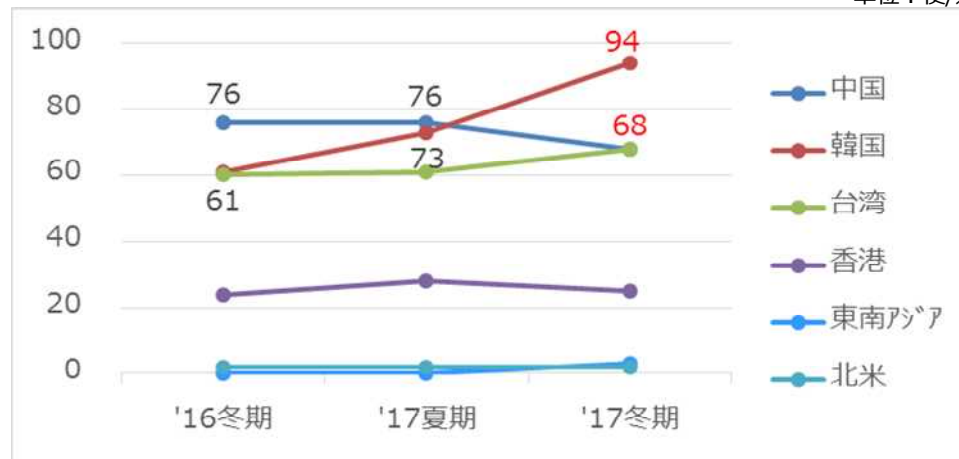
【松山】済州航空が、仁川線を開設。

【鹿児島】イースター航空が、仁川線を開設。

単位：便/週

その他	'16冬期	'17夏期	'17冬期
中国	76	76	68
韓国	61	73	94
台湾	60	61	68
香港	24	28	25
東南アジア			3
北米	2	2	2
合計	223	240	260

単位：便/週



空港	16冬期	17夏期	17冬期
函館	11	13	11
旭川	6	4	0
釧路	0	0	0
青森	3	3	7
秋田	0	0	0
仙台	22	17	26
福島	0	0	0
茨城	6	6	6
新潟	8	7	10
静岡	24	24	23
富山	9	11	8
小松	14	14	12
高松	20	20	20

空港	16冬期	17夏期	17冬期
松山	2	2	3
米子	5	5	5
岡山	19	19	21
広島	26	27	29
山口宇部	0	0	3
北九州	2	12	14
長崎	6	6	5
大分	4	6	7
佐賀	6	8	10
熊本	3	3	9
宮崎	7	7	7
鹿児島	18	19	22
石垣	2	7	2
合計	223	240	260

# 2017冬期 国際線 LCC便数推移

LCCは、期首時点において21社が運航し、全体で1,246.5便/週。'17夏期比で133便/週増加。うち、韓国社が121便/週、香港社が11便/週それぞれ増加する一方本邦社は20.5便/週減少。

旅客便数に占めるLCCの割合

単位：便/週

